

令和8年度（第64回）埼玉県硬筆展覧会参考手本課題語句

小1

いけ
かも
おやこ

小2

きのう 雨が ふりました。
大きな にじが 出て とても きれいでした。

小3

五月七日（木）
今日、はじめてつばめを見ました。
広い空をすいすいと楽しそうにとんでいました。

小4

みんなの力で
少しずつ川が
きれいになっていく
「魚がいたよ。」
友達がうれしそうに
教えてくれた

小5

雲は、いつも風に流されて動き、時こくによって形が変化します。また、その量が増えたり減ったりすることにより、天気も変わります。

小6

この地球の大自然は、人類が出現するよりずっと昔から、長い時間をこえて存在しています。

わたしたちは、この大いなる自然を大切に、生きていきたいものです。

中 1

拝啓

新緑の輝きが美しい季節になりました。お変わりなくお過ごしでしょうか。

このたびは中学入学祝いをありがとうございます。早速、頂いたお祝いで腕時計を買いました。おかげさまで、充実した時間を過ごしています。

夏休みには、そちらに顔を見せに伺います。昼夜の寒暖差もあります。お二人とも、どうぞ自愛ください。

敬具

中 2

アジア競技大会が愛知・名古屋で開催されます。アジア・オリンピック評議会（OCA）が主催し、45の国と地域が参加します。

この大会では、公募により集まったボランティアが活躍します。大会を楽しみにしている諸外国の人たちとの出会いや交流によって、新たな発見や感動を体験できる貴重な機会にもなります。

中 3

絵心は誰にでもあるものである。美しいと素直に感じる気持ちさえあれば、そのとき既に心の内に一枚の絵が生まれているはずである。

物を見て感動する心をもっていること、そして、その感動を絵画に表すことこそ深い意味があると言えよう。絵を描く心をもって暮らせば、毎日見慣れた風景にも、新たな輝きを見つけることができるだろう。

高 1

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあつた。それはこの村でのある闇夜の経験であつた。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見えている、大きな闇のなかであつた。街道へその家の燈が光を投げている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があつた。

高 2・3・4

海は足の下に光る。遮ぎる雲の一片さえ持たぬ春の日影は、あまねく水の上を照らして、いつの間にかほとぼりは波の底まで浸み渡つたと思わるほど暖かに見える。色は一刷毛の紺青を平らに流したところどころに、しろかねの細鱗を畳んで濃やかに動いている。春の日は限りなき天が下を照らして、天が下は限りなき水を湛えたる間には、白き帆が小指の爪ほどに見えるのみである。しかもその帆はまったく動かない。往昔入貢の高麗船が遠くから渡ってくるときには、あんなに見えたであろう。

※高 1 課題は 『蒼穹』 梶井 基次郎 著

※高 2・3・4 課題は 『草枕』 夏目 漱石 著

※手本の配布時期は、例年と同じ 5 月ごろを予定しております。

※その他、詳細の連絡は学校をとおして行われますので、それまでお待ちください。